

## 序 文

名古屋大学工学研究科・工学部では、広く人類社会の発展の基礎となる科学と技術の創成を目指した教育と研究に努めています。現代社会は、地球環境・資源問題、経済的なグローバル化への対応など、多くの課題を抱えています。また、近年の工学が対象とする範囲の拡大も目を見張るものがあります。このような状況で工学の研究や教育の重要性はますます高まっていると言えます。このような工学の教育研究を推進するに当り、例えば、電子顕微鏡の発明と発展により多くの科学技術の進展が生み出されたことなどに示されるように、最先端の科学技術の研究やそれらを通じた教育には技術的な支援が不可欠であることは論を待ちません。この意味で大学における技術支援組織の果たす役割に対する期待には大変大きいものがあり、その責務も従来にも増して重いものがあるといえます。しかしながら、現状の大学における技術支援組織は十分な規模を持っているとはいいがたい状況にあります。また、技術支援組織としてカバーすべき専門領域も、技術領域の拡大に伴うものだけでなく、教育研究のインフラとしての安全・衛生管理、環境保全、情報セキュリティなどの大学全体の基盤となる技術にまで拡大しています。

このような状況の下で、名古屋大学では平成16年度の法人化を契機として、高度な技術の全学的な流通と活用、技術支援業務の組織的な運営などを目指して、全学技術センターとしての技術職員組織の全学一元化を行いました。初期の試行期間を経て、平成21年度から本格実施され、ほぼ2年が経過しようとしています。

一方で、教育研究支援はその現場と密接に連携することも不可欠です。そのため、工学研究科・工学部では、全学技術センター工学系技術支援室から派遣された技術職員の派遣先部局における組織として、工学研究科・工学部技術部を置き、工学研究科・工学部の教員との強い連携のもとに教育と研究の支援業務を精力的に行っています。また、技術職員は支援業務を通じての自己研鑽のみならず、学内外の講習会や技術発表会などを通じて、求められる技術レベルの向上に意欲的に努めています。

本「技報」は、平成22年度の工学研究科・工学部技術部の取組みを示すものです。技術職員の方々が教育研究支援業務を通して得た成果、技術力を高めるために行ったさまざまな研鑽・研修活動の成果などを取りまとめたもので、技術部の技術の向上、教育研究支援活動の向上への努力を示すものとなっています。技術部においては、今後も更なる発展に向け研鑽を進める所存であります。皆様方には、技術部の活動に対する忌憚のないご意見をいただくとともに、引き続きご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年2月

工学研究科・工学部 技術部長

鈴置 保雄